

調査全体の概要

- 調査の目的
義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 調査の対象
小学校第6学年・義務教育学校前期課程第6学年の全児童 中学校第3学年・義務教育学校後期課程第3学年の全生徒
- 調査内容
(1)教科に関する調査 国語 算数・数学 理科(※理科は3年に1度程度の実施)
(2)質問紙調査 児童生徒に対する調査 学校に対する調査
- 調査方式 悉皆調査
- 調査日 令和4年4月19日(火)
- 調査を実施した学校・児童生徒数
小学校 283校 17,863人 (※小学校に義務教育学校前期課程1校を含む)
中学校 129校 15,538人 (※中学校に義務教育学校後期課程1校を含む)

学力向上の取組と本年度の教科に関する調査の結果概要

本市においてはこれまで、「学校力UP支援事業」や「学力向上推進事業」など課題のある学校への支援の重点化や学校・地域等の実情に応じたきめ細かな支援を行う「ブロック化による学校支援事業」、全小中学校への指導主事による「学力向上サポート訪問」の実施など、教育委員会と学校が一体となった取組を継続して進めてきました。

その結果、平均正答率の対全国比について、中学校理科においては前回調査と比較して下降したものの、その他の教科については改善傾向にあり、全国との差は縮まりつつあります。

平均無解答率については、中学校において全国より多い状況です。また、学力層に着目した分析では、学力に課題の見られる児童生徒(区分Ⅳ)の割合について、昨年度(理科は前回調査)と比較すると、小学校国語と中学校理科において増加したものの、その他の教科においては減少し、全国との差は縮まりつつあります。

このように、全体的に着実な改善傾向にあるものの、依然として全国水準には達しておらず、さらなる教育指導の充実が必要です。本年度より新たに策定した「大阪市教育振興基本計画」において、基本的な方向として「誰一人取り残さない学力の向上」を掲げ、「学力向上支援チーム事業」を実施するなど、児童生徒の個に応じたきめ細かくて継続した指導・支援を通じて、大阪市全体の学力向上につなげていきます。

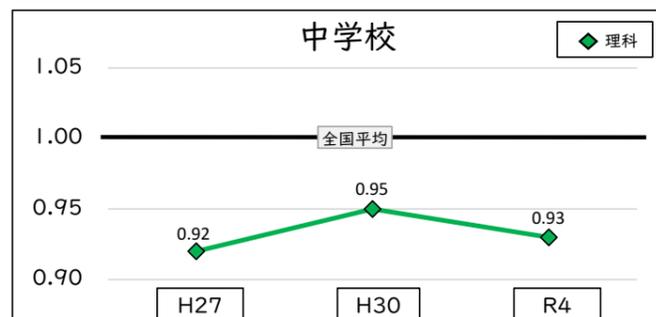
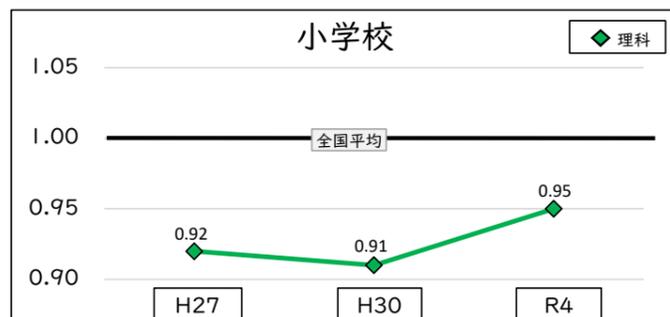
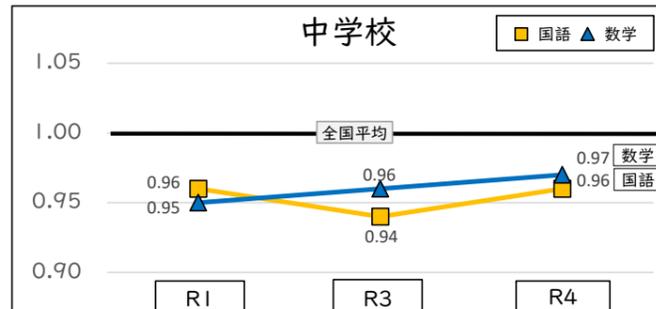
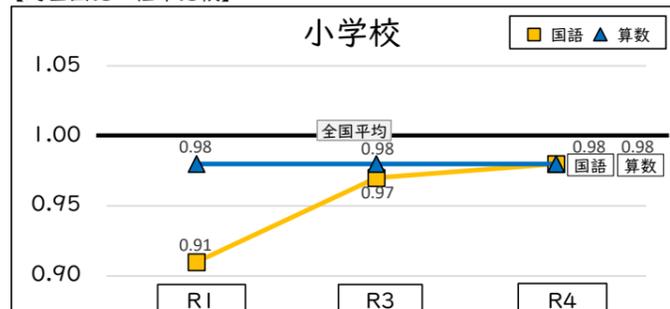
平均正答率と経年比較グラフ

※全国平均正答率を1としたときの大阪市の割合を「対全国比」として表しています。
※小学校理科、中学校理科における過去2回分は、平成27年、平成30年度に実施されていました。
※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症にかかる状況及び学校教育への影響等を考慮し、実施されていません。

	R1			R3			R4		
	大阪市	全国	対全国比	大阪市	全国	対全国比	大阪市	全国	対全国比
小学校 国語	58	63.8	0.91	63	64.7	0.97	64	65.6	0.98
小学校 算数	65	66.6	0.98	69	70.2	0.98	62	63.2	0.98
中学校 国語	70	72.8	0.96	61	64.6	0.94	66	69.0	0.96
中学校 数学	57	59.8	0.95	55	57.2	0.96	50	51.4	0.97

	H27			H30			R4		
	大阪市	全国	対全国比	大阪市	全国	対全国比	大阪市	全国	対全国比
小学校 理科	56	60.8	0.92	55	60.3	0.91	60	63.3	0.95
中学校 理科	49	53.0	0.92	63	66.1	0.95	46	49.3	0.93

【対全国比の経年比較】



平均無解答率

※平均無解答率の値は、小さいほど良好な結果を表しています。

	R1			R3			R4		
	大阪市	全国	全国との差	大阪市	全国	全国との差	大阪市	全国	全国との差
小学校 国語	6.3	6.2	0.1	3.4	4.3	-0.9	4.8	5.7	-0.9
小学校 算数	2.6	2.7	-0.1	2.4	2.6	-0.2	3.3	3.5	-0.2
中学校 国語	3.5	2.6	0.9	5.1	4.4	0.7	5.5	4.3	1.2
中学校 数学	8.8	7.3	1.5	12.3	11.2	1.1	12.2	10.8	1.4

	H27			H30			R4		
	大阪市	全国	全国との差	大阪市	全国	全国との差	大阪市	全国	全国との差
小学校 理科	3.4	3.2	0.2	1.2	1.2	0.0	3.9	3.6	0.3
中学校 理科	7.6	7.0	0.6	5.9	5.0	0.9	4.4	3.4	1.0

学力層に着目した児童生徒の割合

※全国の児童生徒全員の正答分布の状況から高い順に概ね25%になるように区切り、区分Ⅰ・区分Ⅱ・区分Ⅲ・区分Ⅳの4つに分け分析しました。なお、正答数が同じ場合は、上位の区分に含んでいます。

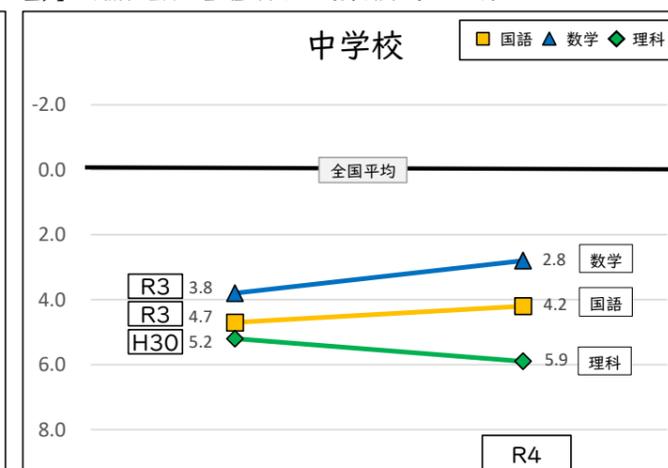
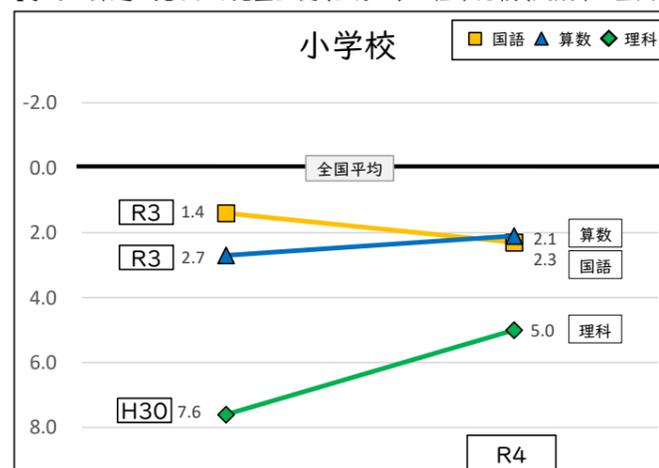
【小学校】

	国語			算数			理科											
	R3		R4	R3		R4	H30		R4									
	大阪市	全国	全国との差	大阪市	全国	全国との差	大阪市	全国	全国との差									
区分Ⅰ	33.7	37.1	-3.4	24.5	28.4	-3.9	29.9	31.4	-1.5	28.4	30.2	-1.8	23.4	31.8	-8.4	24.0	28.5	-4.5
区分Ⅱ	24.5	24.1	0.4	24.7	24.5	0.2	20.6	22.1	-1.5	21.8	21.7	0.1	19.8	22.1	-2.3	28.4	30.0	-1.6
区分Ⅲ	19.4	17.9	1.5	27.6	26.2	1.4	25.3	25.0	0.3	24.0	24.3	-0.3	31.2	28.2	3.0	20.9	19.9	1.0
区分Ⅳ	22.3	20.9	1.4	23.2	20.9	2.3	24.2	21.5	2.7	25.8	23.7	2.1	25.5	17.9	7.6	26.6	21.6	5.0

【中学校】

	国語			数学			理科											
	R3		R4	R3		R4	H30		R4									
	大阪市	全国	全国との差	大阪市	全国	全国との差	大阪市	全国	全国との差									
区分Ⅰ	29.1	34.5	-5.4	26.4	31.2	-4.8	27.6	30.4	-2.8	28.6	30.5	-1.9	24.8	28.3	-3.5	26.2	32.3	-6.1
区分Ⅱ	26.1	26.8	-0.7	26.8	28.4	-1.6	18.8	20.0	-1.2	26.3	27.5	-1.2	19.8	22.4	-2.6	22.5	24.5	-2.0
区分Ⅲ	21.4	20.0	1.4	21.1	19.0	2.1	31.2	31.0	0.2	23.4	23.0	0.4	29.4	28.6	0.8	25.5	23.4	2.1
区分Ⅳ	23.4	18.7	4.7	25.6	21.4	4.2	22.4	18.6	3.8	21.8	19.0	2.8	25.9	20.7	5.2	25.8	19.9	5.9

【学力に課題の見られる児童生徒(区分Ⅳ)の経年比較(大阪市と全国との差)】 ※大阪市と全国との差の値は、小さいほど良好な結果を表しています。



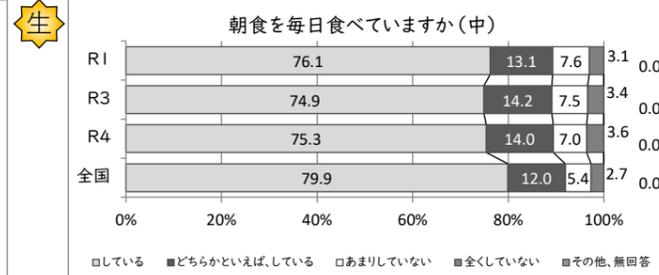
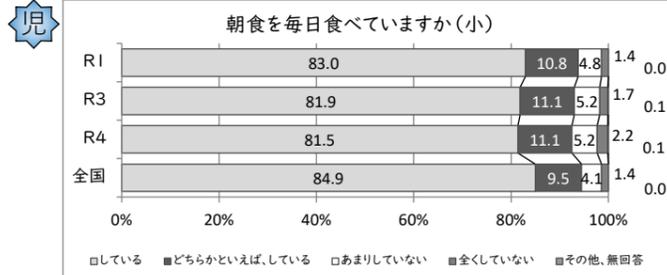
質問紙調査の結果概要

児 児童質問紙

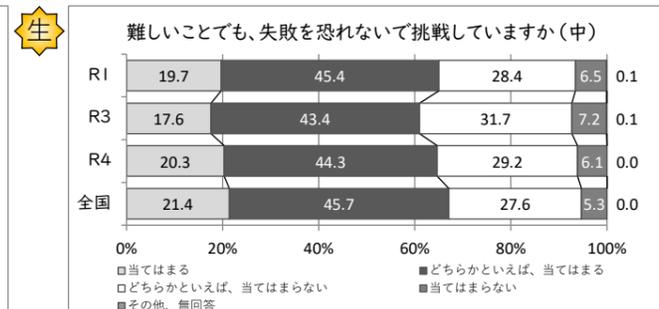
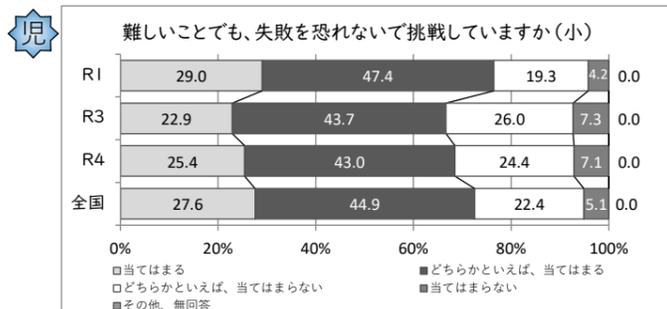
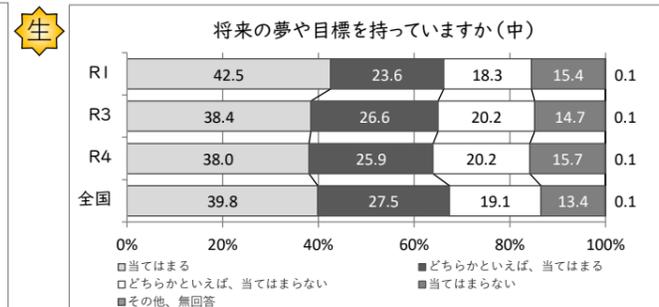
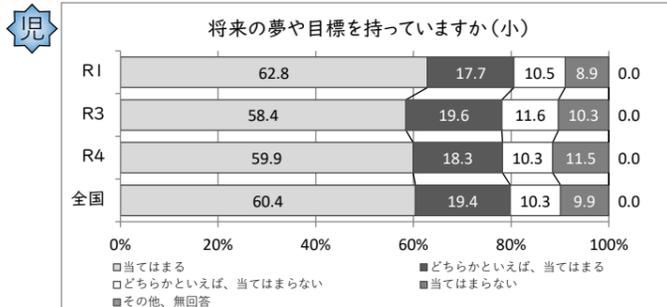
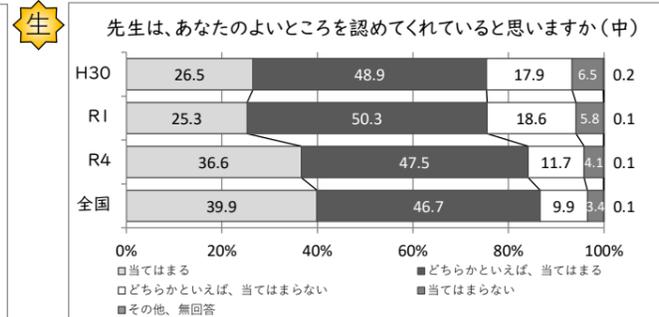
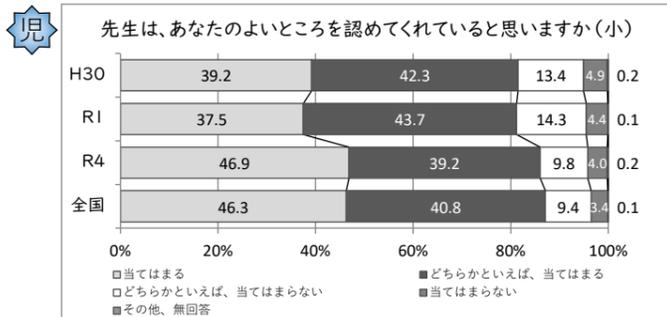
生 生徒質問紙

- ・「朝食を毎日食べていますか」という質問に対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、昨年度と比較すると、小中学校ともに大きな変化はありませんが、全国と比較すると下回っています。
- ・「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という質問に対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、前回調査と比較すると、小中学校ともに増加していますが、全国と比較すると下回っています。
- ・「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に対して「当てはまらない」と回答をした児童生徒の割合は、昨年度と比較すると、小中学校ともにやや増加しており、全国と比較すると上回っています。
- ・「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」という質問に対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、昨年度と比較すると、小中学校ともにやや増加したものの、全国と比較すると下回っています。教科の平均正答率とのクロス集計によると、「当てはまる」と回答した児童生徒の方が、「当てはまらない」と回答した児童生徒より教科の平均正答率が高い傾向が見られます。
- ・「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という質問に対して、昨年度と比較すると、小中学校ともに勉強時間は減少傾向にあります。
- ・「5年生までに受けた授業で（1、2年生のときに受けた授業で）、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」という質問に対して、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、昨年度と比較すると、小中学校ともにやや増加していますが、全国と比較すると下回っています。教科の平均正答率とのクロス集計によると、肯定的な回答をした児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向が見られています。
- ・学校生活の中でさまざまなことに挑戦をする場面を増やし、児童生徒が夢や目標に向かい、自信をもって学習に取り組むことができるように、今後子どもたち一人一人の状況に応じたきめ細かな支援を進めていきます。

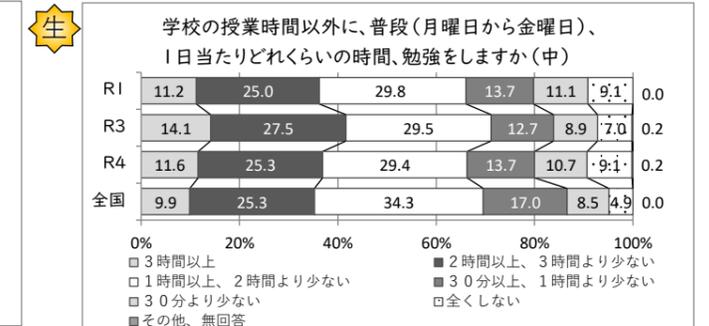
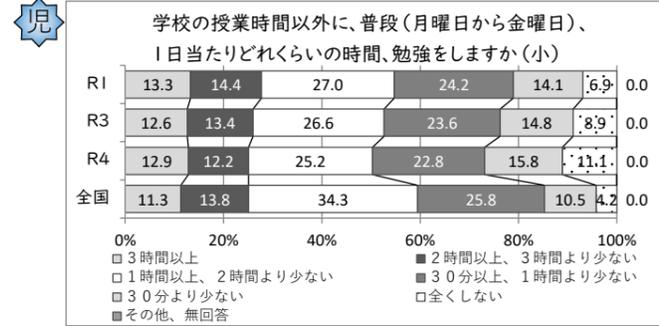
【基本的生活習慣等】



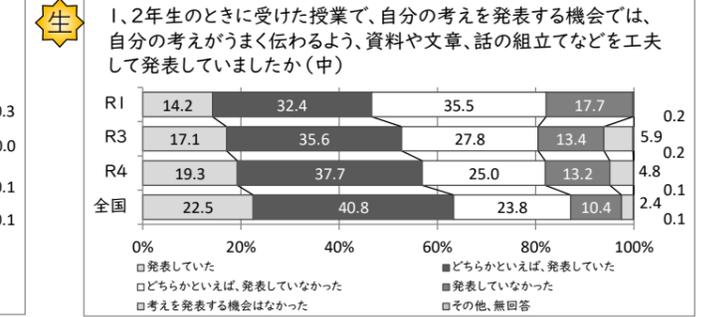
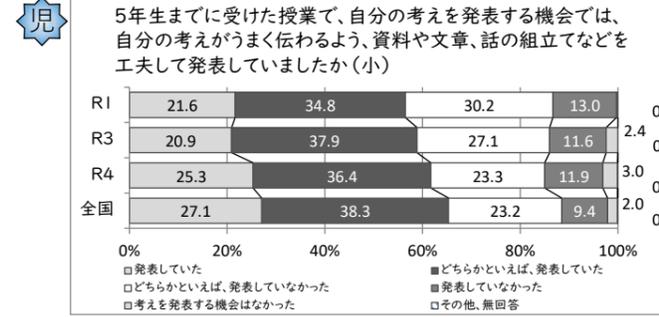
【挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等】 ※当該質問項目の調査があった直近3か年を比較しています。



【学習習慣、学習環境等】

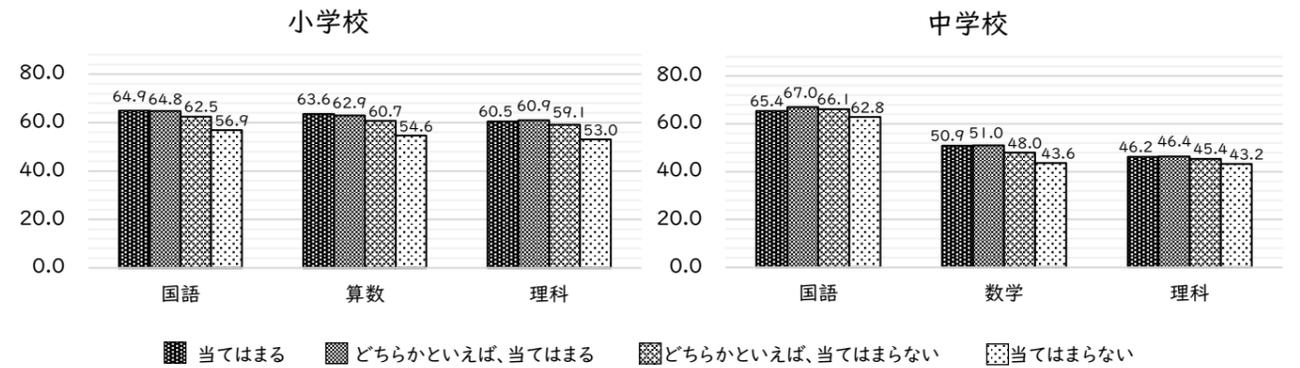


【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】



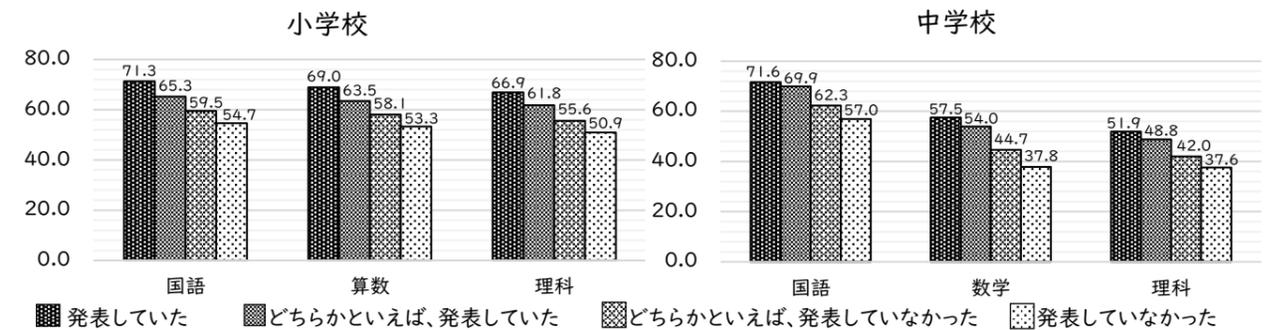
教科の平均正答率と質問紙調査のクロス集計結果

難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか



「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」という質問に対して、小中学校ともに「当てはまる」と回答した児童生徒の方が、「当てはまらない」と回答した児童生徒より教科の平均正答率が高い傾向が見られます。

5年生までに受けた授業で（1、2年生のときに受けた授業で）、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



「5年生までに受けた授業で（1、2年生のときに受けた授業で）、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」という質問に対して、小中学校ともに肯定的に回答をしている児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られます。